

○ 平成26年度予算がまとまりました

毎日を
健やかに過ごしたいだけ、
医療費節減に
ご協力をお願いいたします

2月17日に開催された第102回組合会において、平成26年度の予算が可決・承認されましたので、お知らせいたします。

積立金からの繰り入れで
収入不足を補うことに

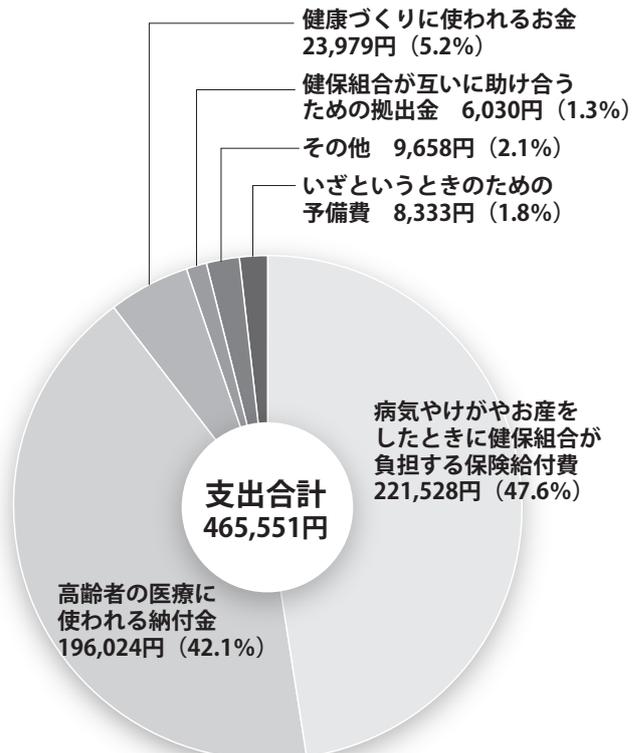
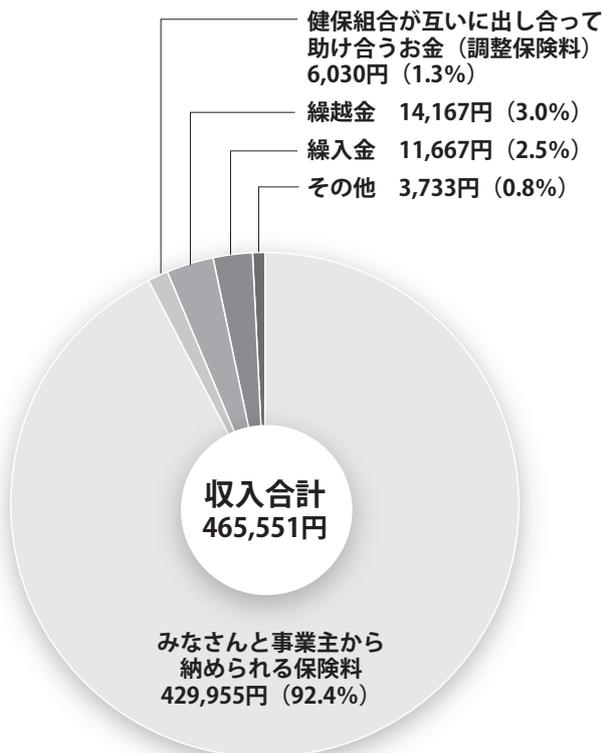
低迷を続けていた日本経済は、さまざまな景気対策によって明るい兆しをみせはじめてはいるものの、健保組合をめぐる情勢は依然として厳しい状況にあります。とりわけ、高齢者医療制度への負担が、全国の健保組合にとって重くのしかかり、財政運営を困難なものにしています。

当健保組合においても苦しい状況に変わりはなく、平成26年度の予算編成にあたっては、収入合計・支出合計それぞれで27億9331万円を見込んでおりますが、実質的な収支である経常収支では経常収入

料率を変更しました

健康保険料	従来 千分の87 →	平成26年4月から 千分の94
介護保険料	従来 千分の14.8 →	平成26年4月から 千分の15.6

◆ 被保険者1人当たりでみた収支予算(健康保険) ◆



※ 四捨五入のため、一部合計の合わない箇所があります

◆平成26年度収支予算概要◆

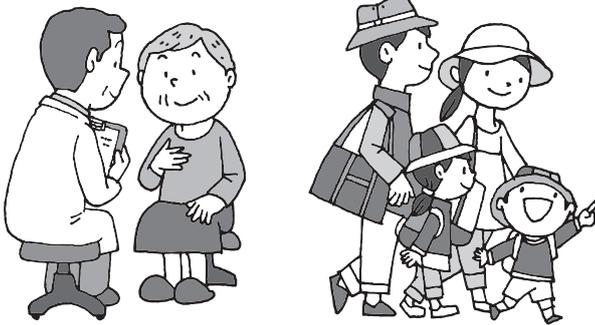
健康保険

■収入

科 目	予算額(千円)
みなさんと事業主から納められる保険料	2,579,729
健保組合が互いに出し合って助け合うお金(調整保険料)	36,178
繰越金	85,000
繰入金	70,001
その他	22,398
合 計	2,793,306

■支出

科 目	予算額(千円)
病気やけがやお産をしたときに健保組合が負担する保険給付費	1,329,166
高齢者の医療に使われる納付金	1,176,141
健康づくりに使われるお金	143,876
健保組合が互いに助け合うための拠出金	36,178
その他	57,945
いざというときのための予備費	50,000
合 計	2,793,306



当健保組合では、40歳以上65歳未満の方に介護保険料を納めていただき、国に介護納付金として納めています。

介護保険サービスの利用増加を反映して、26年度の当健保組合の介護保険料率は千分の15・6となり、介護保険料収入は2億6472万円を見込んでいます。介護納付金は2億6994万円となりました。

**介護納付金約2億7千万円を
国に納めます**

厳しい状況ではありますが、当健保組合としましては、健保組合の重要な仕事の一つである健康づくり事業は引き続き注力してまいりますので、みなさんもどうか毎日を健康にお過ごしください。ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

介護保険

■収入

科 目	予算額(千円)
みなさん*と事業主から納められる介護保険料	264,722
繰越金等	8,562
合 計	273,284

■支出

科 目	予算額(千円)
国に納める介護納付金	269,935
積立金等	3,349
合 計	273,284

※介護保険第2号被保険者たる被保険者等

25億8612万円、経常支出27億641万円となり、1億2029万円の赤字を見込むことになりました。この赤字を補うために、7000万円の繰り入れを行っています。

これまでも、伸び悩む収入に対し、増大する支出に対応するため、健保組合の貯金である積立金を取り崩すことで財政運営を行ってまいりました。しかし、この方策も限界に近づいてきたことから、誠に心苦しい限りではありますが、26年度は保険料率を引き上げさせていただきました。その結果、保険料収入は前年度より1億3153万円増加の25億7973万円となっています。

支出においては、みなさんとご家族の医療費や出産などの給付金にあてられる保険給付費を同比1608万円減少の13億2917万円としています。

また、高齢者の医療費にあてられる納付金については11億7614万円となり、前年度より1億805万円減少しているものの、依然として重い負担となっています。高齢者の医療費(納付金)は国民皆で負担するものではありませんが、現在の医療保険制度では、健保組合に大きな負担を強いるしくみになっているため、納付金額が保険料収入の5割近くを占め、財政悪化の要因となっています。

このほか、みなさんの健康づくりに使われる保健事業費は前年度とほぼ同規模の1億4388万円を見込み、各種健診の費用補助、契約保養所の利用補助など、さまざまな事業を実施いたします。